



中国の大学におけるビジネス日本語教育の現状と問題点について

メタデータ	言語: jpn 出版者: 宮崎大学教育文化学部 公開日: 2020-06-21 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 上原, 徳子, 陶, 婉悠, Uehara, Noriko, Tao, Wanyou メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10458/5373

中国の大学におけるビジネス日本語教育の 現状と問題点について

上原徳子ⁱ 陶婉悠ⁱⁱ

A Study of Present Condition and Problems with Business-Japanese Courses at Chinese Universities

Noriko UEHARA and Wanyou Tao

はじめに

現在中国には多くの日本語学習者がおり、その中には四年制大学（本科大学）の日本語学科で日本語を学ぶ者が含まれる。では、学生や教員は現状に対していかなる意識をいっているのだろうか。また、大学の日本語学科に何らかの問題が存在しているならば、それはどのようなもので、それらはどのように改善できるのだろうか。本論文では、これらの問題について考察するため、中国で学生と教員に質問紙調査と聞き取り調査を行い、その一端を明らかにしようと試みた。ただし、問題は多岐にわたるため、中でも学生たちが特に重要視するであろう就職に直結する「ビジネス日本語」に焦点を当てた。

なお、本論文は、陶婉悠が平成25年度に修士論文として宮崎大学に提出した「中国におけるビジネス日本語教育に関する一考察（平成26年1月27日提出）」に基づいて書かれた。本論文中的数据は全て修士論文の作成のため収集したものである。また、南京農業大学での調査は、陶により平成25年6月15日から19日に行われた。本稿は、修士論文における陶のデータ分析と考察に基づいているが、上原が文章を再構成し、更に加筆修正したものである。

研究方法

調査対象は、宮崎大学の大学間学術交流協定校であり、陶の母校でもある南京農業大学外国語学院日本語学科とし、そこでの学生への質問紙調査（別添資料①）と同時に日本語学科の教員17名にインタビュー調査（別添資料②）を行った。調査の詳細は以下に述べる。

本調査は、中国の大学（本科大学）の日本語学科の学生の日本文化学習への意識、キャリアアップとビジネス日本語教育の関係への認識を明らかにするとともに、学生の回答を通して日本文化関連の授業の現状、ビジネス日本語授業の現状の一端を明らかにすることを目的とする。

調査は、2013年6月の段階の学年で集計したため、実際には学生達は三ヶ月後の9月からは学年が一つ進む。つまり本アンケートに回答した4年生とは就職活動を体験した卒業直後の学生達である。また、学年による日本語レベルの差を考慮し、調査紙の質問文は中国語で記載した（別添資料①を参照）。1年生から3年生までは陶自身が教員の協力の下、授業内に質問紙に回答してもらって回収し、就職活動やインターンシップなどで登校する機会の少ない4年生に

対しては、各クラスの担当者に頼んで全員が集まる機会(卒業式)にアンケートを配布してもらい、回収、郵送してもらうという方法を探った。

また、学生へのアンケート調査と同時に日本語学科の教員17名(3名の在職ネイティブ日本語教員と1名の離職ネイティブ教員を含む)に陶がインタビュー調査を行った。中国人教員には中国語で、日本人教員には日本語でインタビュー調査を行った。インタビューに関してもあらかじめ質問紙(別添資料②を参照)を用意したがそれに書き込んでもらったわけではなく、インタビュー内容は録音し、帰国後その内容を文字化して考察した。

南京農業大学における日本語教育の現状に関する調査

南京農業大学日本語学科の概要

南京農業大学は中国南京にある教育部直属の重点大学であり、農業と生命科学を中心とした総合大学である。宮崎大学とは学術交流協定を結んでいる。

今回調査対象とした外国語学院日本語学科は1996年に設置された。1年生から4年生まで各3クラスずつ、全部で12クラスある。1クラスは約28名～30名で、総学生数は約340名である。調査を行った2013年11月現在ホームページで確認できる教員数は20名(客員を除く)であり、20名の内の3名がネイティブ日本語教員である。

南京農業大学外国語学院日本語学科履修基準ⁱⁱⁱは以下の通りである（表1・翻訳したもの）。

学生が卒業するためには全部で183単位を取得する必要がある。その履修科目は「共通教育科目」、「専門教育科目」、「発展教育科目」に大別される。「共通教育科目」は日本語学科以外の外国語学科の学生も履修すべき科目である。「専門教育科目」の全てが必修科目であり、日本語学科の主要科目がこの中に含まれている。「発展教育科目」のは全て選択科目となっており、選択する学生数により開設かどうか決定される。表1のように、南京農業大学日本語学科では、ビジネス日本語に直接関連する授業は主要科目に入っておらず、「発展教育科目」に含まれている。

表1 南京農業大学日本語学科履修基準一覽表

科目 区分		授業科目	単位		習得すべき 単位数			配 当 年 次	一年次		二年次		三年次		四年次		
			必修	選択					前	後	前	後	前	後	前	後	
共通 教育 科目	共通教育科目		○		43	53		160	略								
	共通教育選択科目			○	10												
	課題図書			○	(4+6)												
専門 教育 基礎 科	学 科 基 礎 科	高等数学	4		43	59	77		1 前	④							
		基礎日本語Ⅰ	4						1 前	④							
		基礎日本語Ⅱ	5						1 前	⑤							
		基礎日本語Ⅲ	4					1 後		④							
		基礎日本語Ⅳ	5					1 後		⑤							

目	目	中国文化概論	2	16		1 後	②							
		西方文化概論	2				②							
	専門基礎科目	中級日本語Ⅰ	4					④						
		中級日本語Ⅱ	4					④						
		学科導論	1						①					
		中級日本語Ⅲ	4						④					
		中級日本語Ⅳ	4						④					
	専門主要科目	日本語聴解と会話Ⅰ	1				1 後	①						
		日本語聴解と会話Ⅱ	1				2 前		①					
		日本語読解Ⅰ	2				2 後			②				
		日本語聴解と会話Ⅲ	1				2 後			①				
		日本語読解Ⅱ	2				3 前				②			
		日本語聴解と会話Ⅳ	1				3 前				①			
		日本語翻訳Ⅰ	2				3 後					②		
		日本語作文Ⅰ	2				3 後					②		
日本語翻訳Ⅱ		2		4 前						②				
日本語作文Ⅱ	2		4 前						②					
総合実践演習	朗読訓練	1	18	1 後	①									
	中国語日本語 パソコン入力訓練	1		1 後	①									
	模擬対外貿易商談	2		3 後					②					
	教育実習	2		4 前						②				
	通訳、翻訳実践	2		4 前						②				
	インターンシップ 及び卒業論文	10		4 後								⑩		
発展教育科目	推薦専門選択科目	大学生創新訓練企画 (SRT)	1	30	2 前		1							
		日本語社会言語学	2		3 前				2					
		日本文学史	2		3 後					2				
		日本語中国語 文法語彙比較	2		3 後					2				
		日本文化	2		2 後			2						
		高級日本語Ⅰ	6		3 前				6					
		日本概況	2		3 前				2					
		日本文学作品選読	2		3 前				2					
		日本語語彙学	2		3 前				2					
		日本語文法	2		3 前				2					

	ビジネス日本語読解		2		3 前					2			
	高級日本語Ⅱ		6		3 後					6			
	科技日本語読解		2		4 前						2		
	ビジネス日本語翻訳		2		3 後					2			
	ビジネス日本語作文		2		3 後					2			
	秘書日本語		2		3 後					2			
	パソコン補助翻訳		1		4 前						1		
	ビジネス日本語会話		2		4 前						2		
	その他	略	○		略								

調査の対象

本稿の調査対象は、前述のように南京農業大学日本語学科の1年生から4年生の男女とし、在籍学生全体(約340名)の約80%にあたる245名から回答が得られた。245名の回答者の内、1年生は83名、2年生は75名、3年生は61名、4年生は26名であった(表2)。

表2

学年 \ 性別	男性	女性	合計(人)
一年生	18	65	83
二年生	8	67	75
三年生	9	52	61
四年生	5	21	26
合計	40	205	245

調査の結果

在学生に対する質問紙調査の結果

設問1 性別

男女比をみると女子学生は205名で、男子学生が40名であり、女子学生が圧倒的に多く回答者全体の84%を占めていた。

設問2 学年

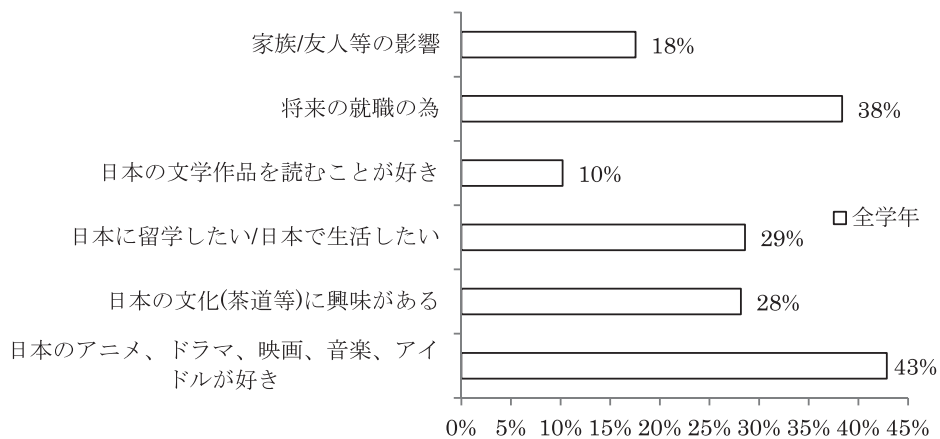
表2のとおり、今回の調査対象者の中、1年生は83名、2年生は75名、3年生は61名、4年生は26名であった。

設問3 日本語専攻を選んだ理由は何ですか(複数回答可)。

表3からわかるように、「日本のアニメ、ドラマ、映画、音楽、アイドルが好き」という理由が最も多く43%を占めている。次いで、「将来の就職の為」という理由が38%を占めている。そ

の他、「日本の文化に興味がある」、「日本に留学したい/日本で生活したい」も主な理由として挙げられていることから、単に就職のためではなく、学生が日本及び日本文化に興味があるからこそ日本語専攻を選んでいることが明らかになった。

表3 日本語専攻を選んだ理由



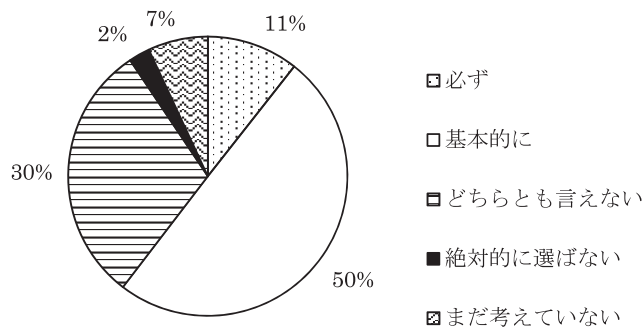
設問4 渡日経験

学生に行ったアンケートの回答者245名の内、渡日経験のある学生は12名で、わずか5%しかない。南京農業大学は千葉大学、宮崎大学、鹿児島女子短期大学と交流協定を結んでおり、南京側からはほぼ毎年6名の交換留学生を派遣しているが、学生からは「本当に日本に行ってみたいが、なかなかそういう機会に恵まれない」、教員からは「学生のために交換留学の機会をもっと増やしてほしい」という声が聞かれた。学生にとって、留学は日本の生活を体験し、日本の文化を理解する最も有効な手段であるため、特に日本に関心を持っている学生の要望が高い。

設問5 大学卒業後、日本語或いは日本に関する仕事を選びますか。

南京農業大学日本語学科の学生の希望進路を聞いたところ、表4のように日本語或いは日本

表4 日本語或いは日本に関する仕事に就く意志について



に関する仕事に就く意志のある学生が約60%で、絶対に就かないという学生はわずか2%に過ぎないという結果であり、過半数の学生が日本語及び日本に関する仕事を希望していることがわかった。

設問6 在学中、どんな日本語能力の養成が重要だと思いますか。

表5～表8から明らかなように、全ての学年において「聴解力」と「会話力」の養成が重要だと考えている学生が最も多かった。次いで、「異文化コミュニケーション力」の養成の重要性も認識されていることがわかった。

表5 日本語能力の重要度 一年生

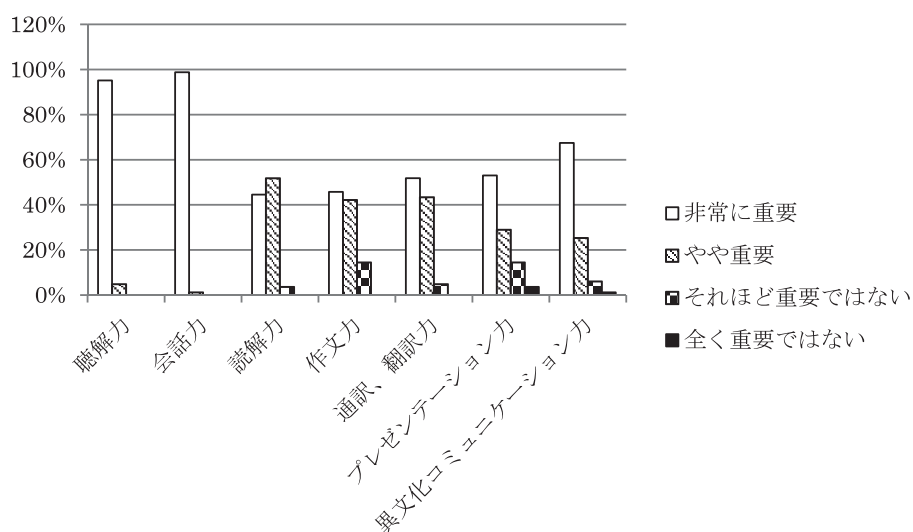


表6 日本語能力の重要度 二年生

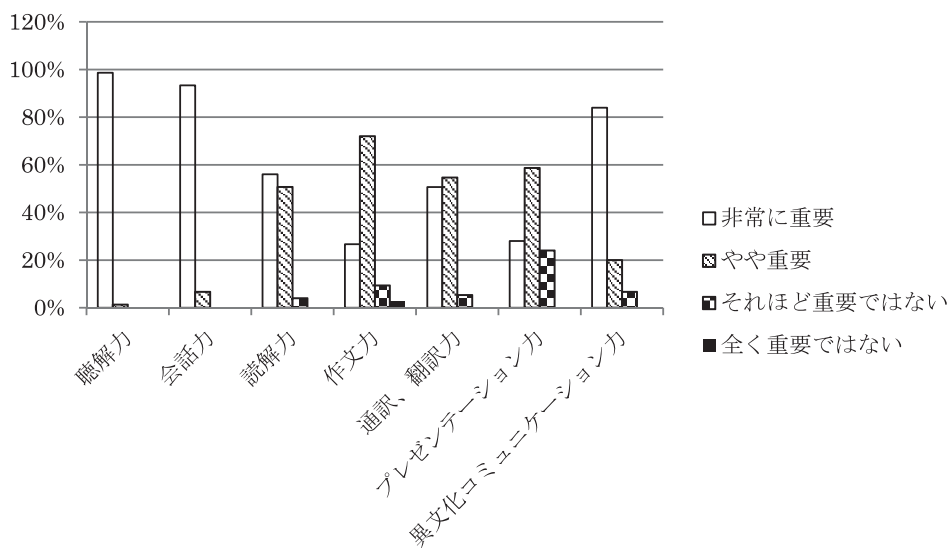


表7 日本語能力の重要度 三年生

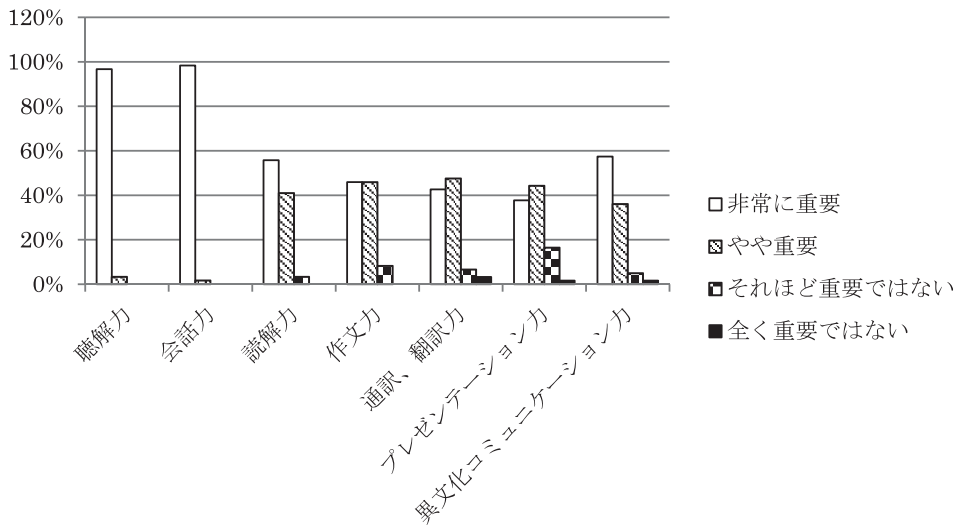
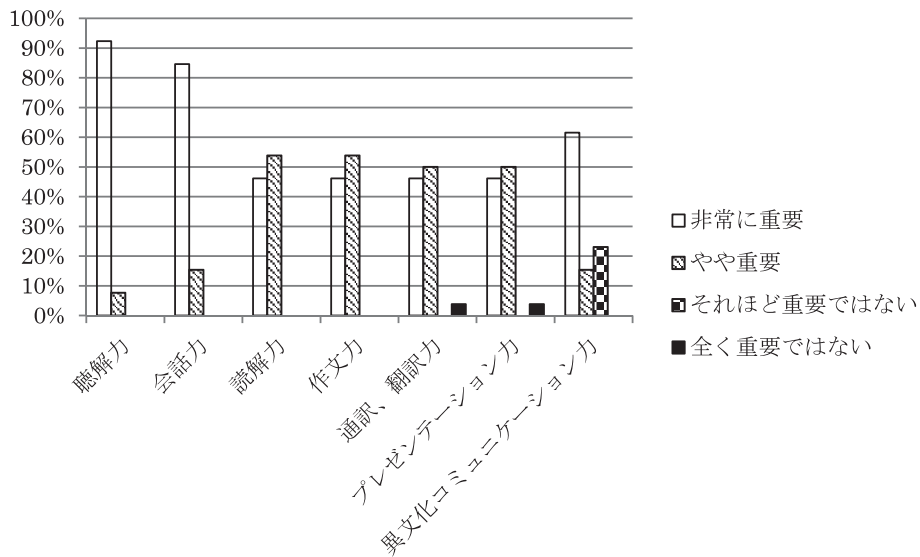


表8 日本語能力の重要度 四年生



設問7 現在の学習状況について評価してください。

表9～表12からわかるように、現在の学習状況について、低学年においては学生自身が「とても満足」と評価した日本語能力分野の数値は極めて低かった。四年生になると、やや増加する様子がみられるが、全学年おしなべてそれぞれの日本語能力について、学生自身はあまり満足していないことが明らかになった。

表9 学習状況に対する評価 一年生

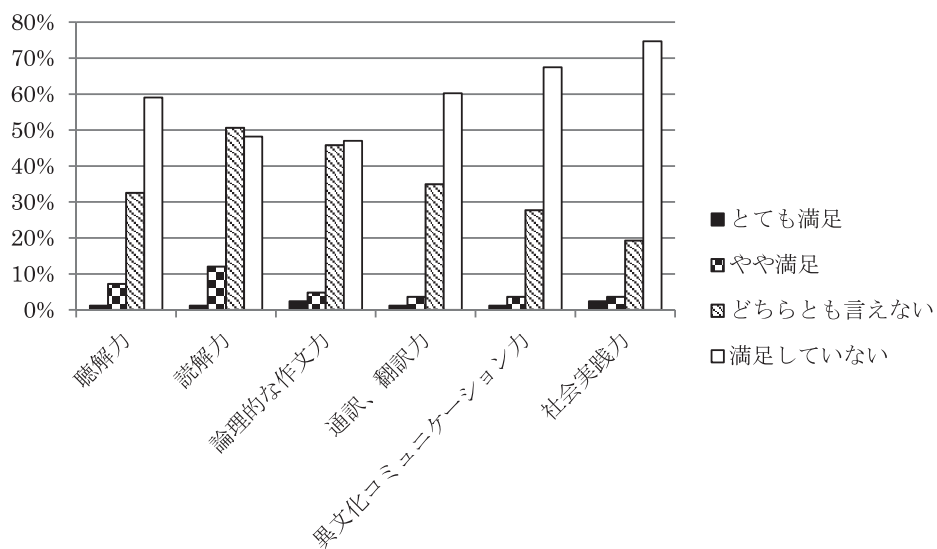


表10 学習状況に対する評価 二年生

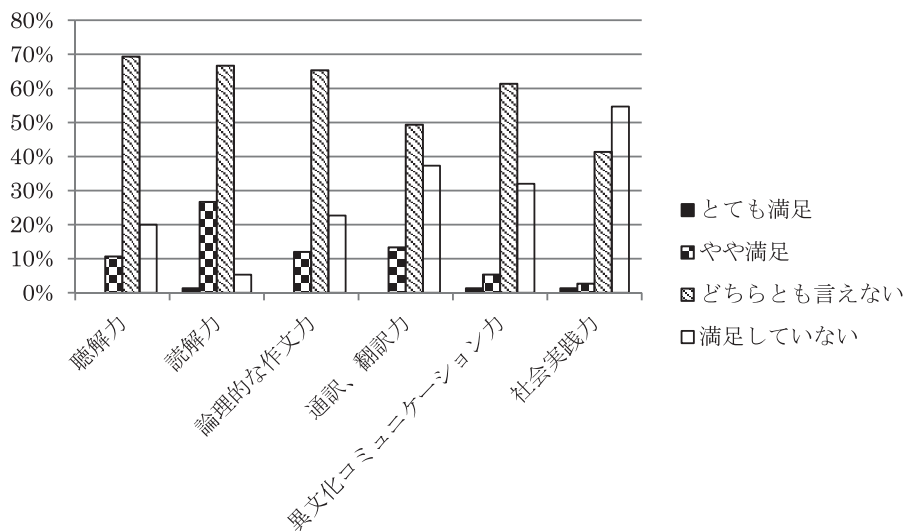


表11 学習状況に対する評価 三年生

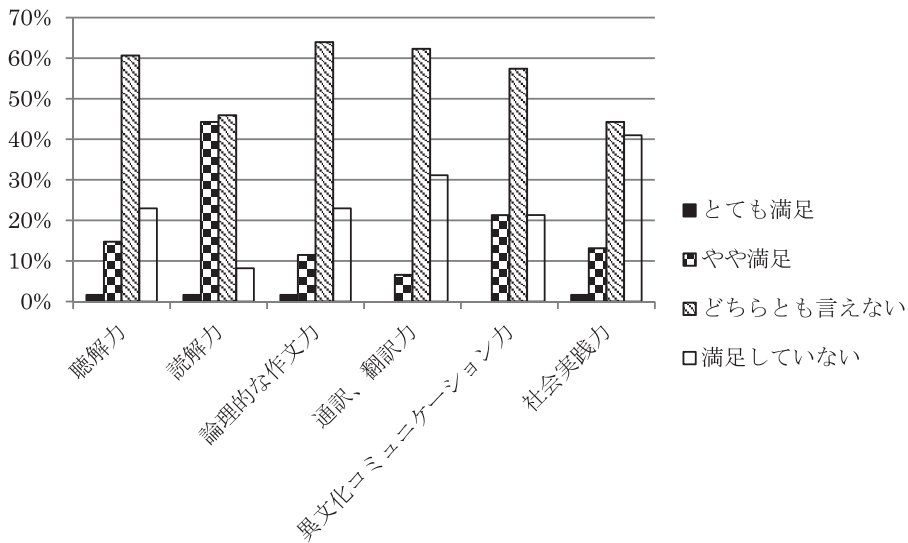
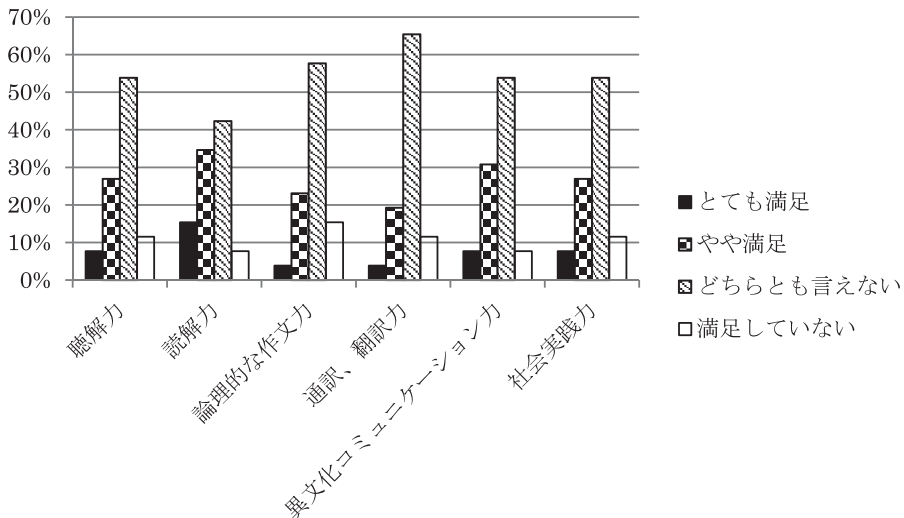


表12 学習状況に対する評価 四年生



設問8 日本語を学ぶと同時に、日本の文化を学ぶことが重要ですか。

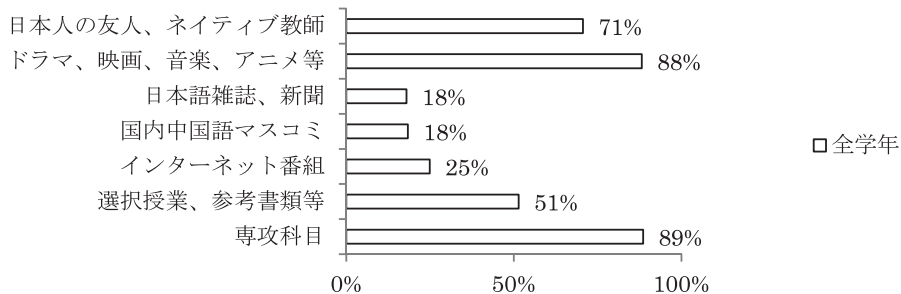
日本語学習に加えて日本文化学習の重要度への意識を尋ねたところ、「とても重要」が68%と「やや重要」が31%、合計 99%と非常に高い数値を占めていた。ここから、学生達は日本文化学習を非常に重要だと認識していることが判明した。

設問9 普段はどのように日本文化に関する知識を得ていますか（複数回答可）。

学生自身の日本文化に関する知識の獲得手段としてどのようなものがあるのか詳しく見ていくと、表13のとおり「ドラマ、映画、音楽、アニメ等」、「日本人友人、ネイティブ教師」を選んだ

学生が多いほか、一番下の「専攻科目^{iv}」が89%と大きな割合を占めていることがわかった。従って、日本語を学んでいる学生が日本文化に触れる手段の一つである「専攻科目」での日本文化導入は学生の日本文化学習の効果を大きく左右するといえるだろう。学生の文化関連の知識の習得には大学の授業が大きな比重を占めているのである。

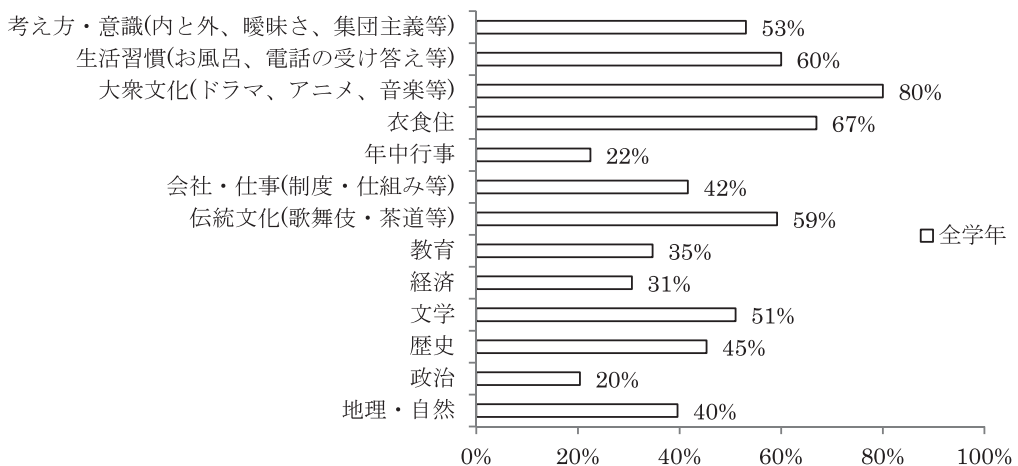
表13 日本文化関連の知識の獲得手段



設問10 (A) 日本文化関連の科目については、どのような内容に興味を持っていますか (複数回答可)。

表14から明らかなように、学生が興味を持つ内容はドラマ、アニメ、音楽等の「大衆文化」や「衣食住」、「生活習慣」等であり、日本人の「考え方・意識」や「会社・仕事」については、学生は関心を持っていないわけではないがそれほどは注目をしていないことがわかった。前述した「日本語専攻を選んだ理由」でも、日本の大衆文化を挙げる学生が圧倒的に多かった。これらの結果から、学生が興味をもって触れる分野は「大衆文化」に偏っており、日本人と一緒に仕事をする場合や日本語を使って日本人とやり取りをする時に最も重要な内容である「日本人の考え方」や「日本の会社・仕事」等に対する意識は不十分であると考えられる。

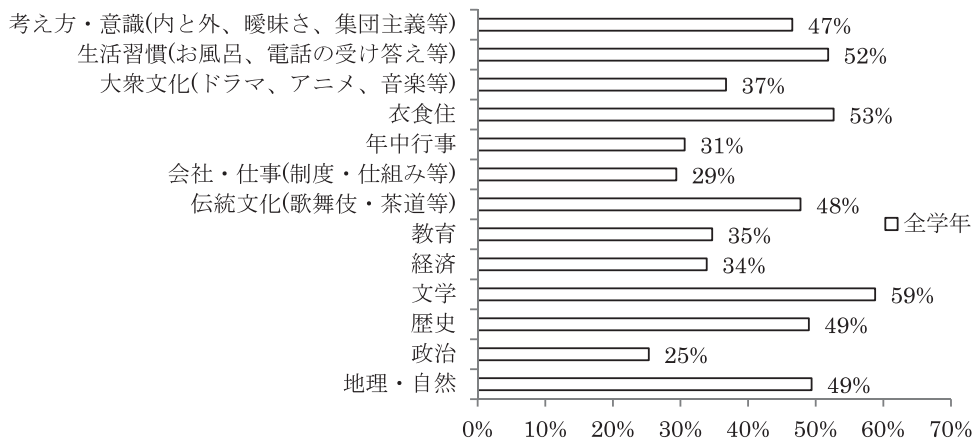
表14 興味のある内容



設問10 (B) 現在日本文化関連の授業にはどんな内容が含まれていますか (複数回答可)。

この質問に関して、学生の回答には学年による差があまりみられなかった (表15)。表から教員が授業で文化関連の内容をほぼまんべんなく教えていることがわかる。後述の教員へのインタビューによれば、教員たちは自分の得意分野を教えたり、インターネットで検索した内容を教えたり、自分で探した本の内容に沿って教えたりしているという。そうだとすれば、結果的にその内容が多岐にわたっているだけであり、カリキュラムで意識した結果ではないようである。

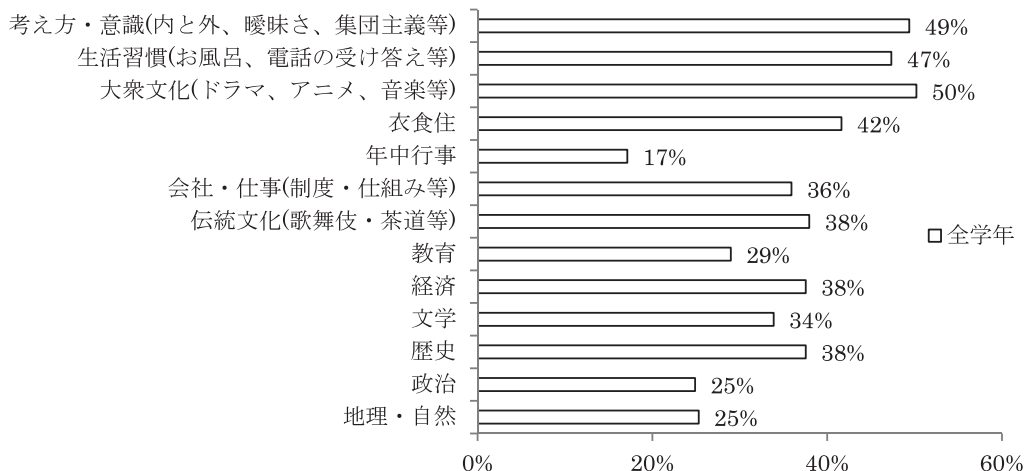
表15 現在の日本文化関連の授業に含まれている内容



設問10 (C) これから特に力を入れて勉強したい内容は何ですか (複数回答可)。

表15によると、現在の授業では「文学」の内容が最も多いのに対して、学生が一番興味のある内容は「大衆文化」であり、これから力を入れて勉強したい内容でも「大衆文化」が最も多かった。このことから、教師が教えている内容は実際に学生のニーズと差があることがわかった。

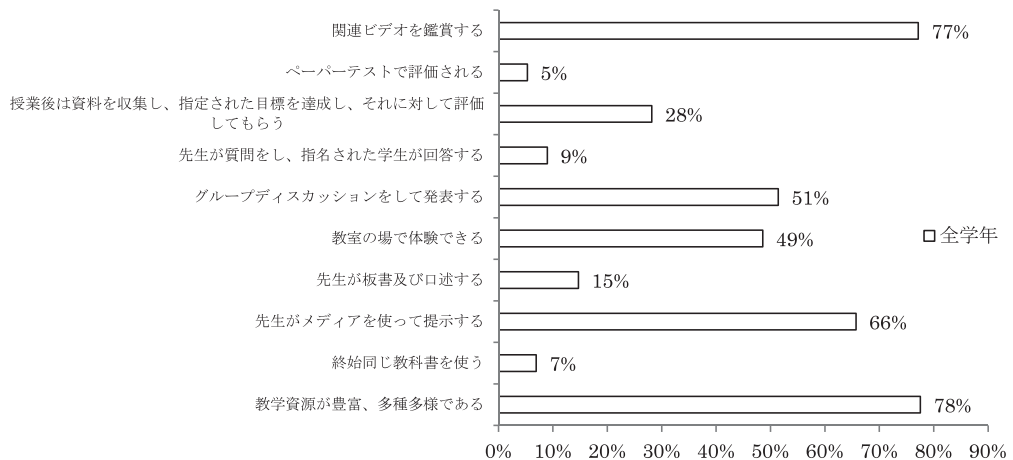
表16 今後特に力を入れて勉強したい内容



設問11 日本文化関連の授業は、どんな形式で行うのが望ましいですか（複数回答可）。

中国の大学の授業では、従来、学生は受け身であったが、表17にみられるように、現在は学生の意識が変わってきており、「先生がメディアを使って提示する」、「教室の場で体験できる」等、よりメディアを駆使した授業及び参加型の授業を望んでいることがわかった。また、「関連ビデオを鑑賞する」等の回答は教材資料の充実の必要性とつながるといえよう。

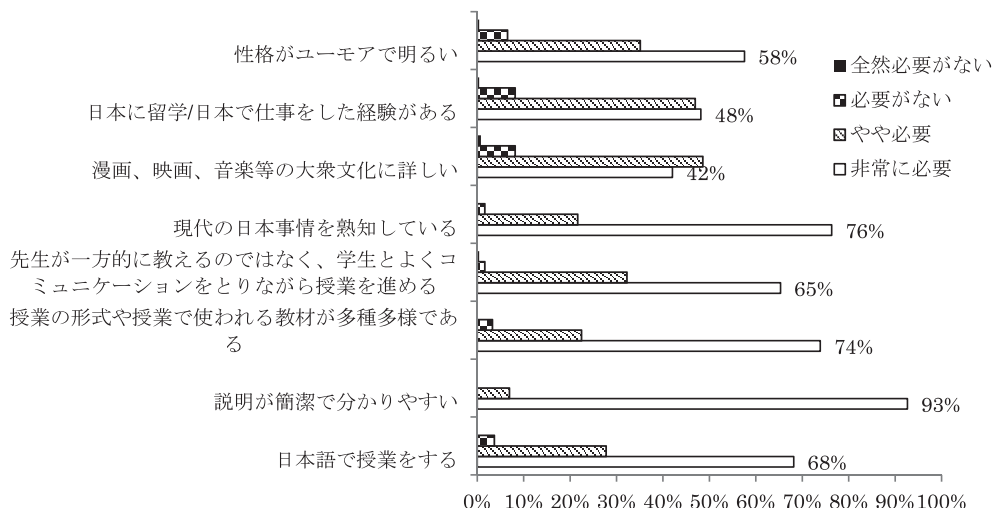
表17 日本文化関連の授業の望ましい形式



設問12 理想的な日本文化の授業について、教師に何を求めていますか。

理想的な日本文化の授業について、表18にあるように教師に求めている項目の中、「説明が簡潔で分かりやすい」、「現在の日本事情について熟知している」、「授業の形式や授業で使われている教材が多種多様である」に対するニーズが上位を占めていた。

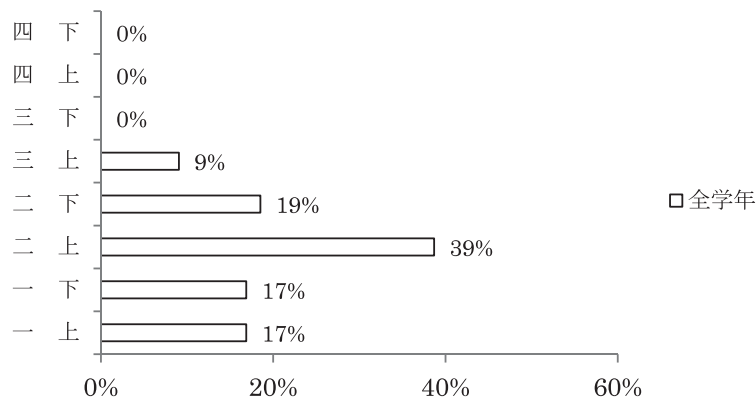
表18 日本語教師に求めていること



設問13 日本文化関連の授業はいつ開設したほうが良いと思いますか。

表19から、日本文化関連の授業は二年生前期^vに開設するように求めている学生が最も多いことが明らかになった。

表19 日本文化関連の授業の開設希望時期



設問14 日本語教育とキャリアアップの関係についてお答えください。

日本語教育とキャリアアップの関係について8問を設け、それぞれ「反対」、「どちらともいえない」、「賛成」という三つの選択肢から自分の考えと近いものを選ぶという形式で行った。詳しい結果は以下の通りである。

① 日本語能力は高ければ高いほど希望する職に就くことができる。

「日本語能力は高ければ高いほど希望する職に就くことができる。」に対し、50%の学生が「賛成」を選択した。ここから、高い日本語能力は良い就職の決め手になると考えている学生は少なくないことがわかった。

② 仕事を得るためには、「聞く」、「話す」能力は「書く」、「読む」能力より重要である。

「仕事を得るためには、「聞く」、「話す」能力は「書く」、「読む」能力より重要である。」と考える学生は77%もいることが明らかになった。在中日系企業の場合、筆記試験を実施しているところは少ない。日系企業が他の中国企業と同じように、面接を主な採用手法としている可能性が高いと考えられる。採用手法の現地化の影響は日本語学科の学生にも及んでいると推測できる。面接試験では、学生の聞く能力や話す能力のレベルが直接反映される試験であり、学生は面接に受かるために、在学中、「書く」、「読む」能力より、「聞く」、「話す」能力を重視している傾向がみられる。

③ 日本語で自分の意見を主張する能力や書く能力が重要である。

「日本語で自分の意見を主張する能力や書く能力が重要である。」に対し、「賛成」と回答した学生は80%を占めていた。職場では、自分の意見を述べたり、プレゼンテーションをしたり、自分のアイデアを盛りこんだ提案の作成をしたりすることが求められ、そして、その際に話す能力から書く能力まで、非常に高い日本語能力が必要とされていることが学生に認識されていることを表している。

- ④ 日本の文化を知ることがコミュニケーションに役に立つだけではなく、キャリアアップにもプラスの影響がある。

89%の学生が「日本の文化を知ることがコミュニケーションに役に立つだけではなく、キャリアアップにもプラスの影響がある。」と考えていることから、日本文化学習及び理解は日本人との交流を円滑にすることに役に立ち、さらにキャリアアップにも良い効果をもたらすということが認識されていることが明らかになった。

- ⑤ 日系企業で実際に使う日本語は授業で学んだ日本語とは差があるので、ビジネス日本語の科目を開設する必要がある。

「日系企業で実際に使う日本語は授業で学んだ日本語とは差があるので、ビジネス日本語の科目を開設する必要がある。」と考えている学生は78%もいる。南京農業大学では、「ビジネス日本語」という科目は開設されていない。しかし、それに近い「経貿日本語」、「秘書日本語」といった科目が設けられているが、これらの授業では、経済専門用語やビジネス書類の書き方などが主な内容とされているのが現状である。このことから、南京農業大学の日本語学科の学生にとって、実際に日系企業で使用できる実用的な「ビジネス日本語」の授業へのニーズが非常に高いといってもよいだろう。

- ⑥ 日本語教育を受けたことのある人は日系企業の職場環境に馴染みやすい。

60%と過半数の学生が、「日本語教育を受けたことのある人は日系企業の職場環境に馴染みやすい。」に賛成していた。このことから、大学で一定の日本語能力を身に付け、日本人とのコミュニケーションが取れるだけでなく、さらに日本文化に触れたことのある日本語学科の学生だからこそ、日系企業の仕事に馴染みやすいと考える学生は少なくないことが推測できる。

- ⑦ 日系企業に入ってから、日本の企業文化を自然に身につけるので、在学中に特にビジネス日本語の科目を開設する必要はない。

「日系企業に入ってから、日本の企業文化を自然に身につけるので、在学中に特にビジネス日本語の科目を開設する必要はない。」に対し、64%の学生は「反対」を選択している。それに対して「賛成」は12%、それ以外は「どちらともいえない」を選んだ。

- ⑧ 日本語能力が高ければ高いほど良い給料がもらえる。

「日本語能力が高ければ高いほど良い給料がもらえる。」に対し、6割の学生が「どちらともいえない」を選択しているが、ここで注目してほしいのは、賛成している学生は反対している学生より多いということである。これを前述の「日本語能力が高ければ高いほど希望する職に就くことができる。」と合わせて考えると、「高い日本語能力」を持っていれば、「良い仕事」もできるし、「良い給料」ももらえるというふうに考えている学生は61%と半分以上を占める。しかし、「良い仕事」に就くことや「良い給料」がもらえることは決して「日本語能力」だけで実現できない。回答がこのような結果になったのは、大学の教育方針の影響も大きいと考えられるし、また一方で、学生自身が日本語を学習するということと、それをいかした将来の就職への意識がまだ薄いとも考えられるだろう。

設問15 実用的なビジネス日本語を学ぶことが重要だと思いますか。

本論文は、ビジネス日本語に視点を当てているためあえてこのような質問を行った。この問題に関しては、「非常に重要である」と「やや重要である」という回答が合わせて98%も占めていた。

設問16 実用的なビジネス日本語を学ぶと同時に、日本の文化を学ぶことが必要だと思いますか。

この問題に関しては、「非常に必要である」と「やや必要である」という回答は、合わせて99%に達しており、ほとんどの学生が実用的ビジネス日本語学習と日本文化学習を統合することは必要だと考えていることがわかった。

設問17 将来のより良いキャリアアップのために、現在のビジネス日本語関連の科目はどのような改善が必要だと思いますか。

① 日本語のビジネス専門用語を大量に学習する。

「日本語のビジネス専門用語を大量に学習する」ことが必要だと思っている学生は、「非常に必要」「やや必要」を合わせると94%と9割以上も占めている。日本語学科の学生が普段の授業で学んでいる内容の多くは日本語そのものに関する内容であり、実際にビジネスの場面で使い、そしてビジネスを成功させるのに必要な知識は不十分である。

② 現在使っている教材を変える。

教材については、「非常に必要」23%、「やや必要」55%と7割以上の学生から「現在使っている教材を変えてほしい」という要望がある。

③ より実用性のある教材を使う。

「非常に必要」69%、「やや必要」30%とほぼ全員が「より実用性のある教材を使う」ことを必要だと感じていた。

④ より体系的に学習できる教材を使用する。

「非常に必要」60%、「やや必要」38%とほとんどの学生が「より体系的に学習できる教材を使用する」ことを要望していることがわかった。

⑤ ビジネス場面での会話練習の機会を増やす。

「非常に必要」79%と8割近くの学生は「非常に必要」を選択している。この結果は、学生はビジネス場面での会話力の養成へのニーズが非常に強いことの裏付けだといえるだろう。

⑥ 日本社会の文化に関する内容をもっと紹介する。

また、日本社会の文化に関する内容、日本人の行動様式や生活習慣等の内容、日本の企業文化についての内容へのニーズも「非常に必要」71%、「やや必要」27%と特に高かった。これは、6割の学生が大学卒業後、日本語あるいは日本に関係する仕事に就きたいことと関連していると考えられる。日本語能力をいかせる仕事をする上で、日本の社会文化、日本人の考え方、日本の企業文化等への理解は不可欠であろう。実際に大多数の学生がそれを認識していることがわかった。

⑦ 日本人の行動様式や生活習慣等の内容を増やす。

「日本人の行動様式や生活習慣等の内容を増やす」という項目に対するニーズは「非常に必要」76%、「やや必要」23%と非常に高い数値を示していることが明らかであった。

⑧ 日本の企業文化（報・連・相、5S、CS、ES、CSR等）についてもっと紹介する。

「非常に必要」66%、「やや必要」31%とほぼ全ての学生が「日本の企業文化（報・連・相、5S、CS、ES、CSR等）についてもっと紹介する」ことを求めている。

⑨ 異文化コミュニケーション力の養成に力を入れる。

学生は「異文化コミュニケーション力の養成」への重視度も「非常に必要」74%、「やや必要」26%と非常に高く、全員が力を入れたいという意志を示している。

⑩ 就業支援や指導等の内容を増やす（履歴書の書き方、面接対策、ビジネスマナー・習慣等）

将来のより良いキャリアアップのために、現在のビジネス日本語関連の科目の改善点として、最もニーズが高かったのは「就業支援や指導等の内容を増やす」ことで、83%の学生がそれを希望していた。中国の大学生の就職活動は、通常、大学の就職指導センターが校内に掲示する情報や、インターネット上の情報を利用して募集企業の情報を集め、その中の応募したい企業を選んで自分の履歴書や各種資格証明書を含む求職書をその企業へ送ることで応募する形式をとる。あるいは、大学が主催する企業説明会や地方政府が主催する人材交流会に参加して、応募したい企業に自分の履歴書を直接渡すなどして就職活動を行う。大学の就職指導センターの機能は、単に情報を提供し、企業を集めることにとどまっている場合が多い。就職活動は学生自身の努力次第であるといっても過言ではない。中国の大学は、日本の大学のように、学生支援部を設け、学生の就業支援や指導をするシステムを整えるだけでなく、企業、行政と連携までして、学生の就職を全力で支えているわけではない。しかし、大学に就職のサポートを希望している学生は決して少なくない。特に近年、大学生全体の就職環境がより厳しくなっており、その中でも日本語学科の学生は厳しい就職状況にある。それに加えて、日系企業は他とは異なる特有の企業文化をもち、採用の流れ、基準等も他の中国企業と異なる部分があるため、日系企業への就職の難度が高いのも事実である。このような中、日本語学科の学生の就職支援や指導への要望はどんどん高まってきており、それはこの調査結果からも明らかである。

日本語教員に対するインタビュー調査の結果

ここからは、教員へのインタビュー調査結果について述べる。調査はインタビュー形式で行ったため、数字での集計は行っていない。

回答の内容から、中国人教員は基礎知識（単語、語彙、文法）をしっかりと教えるのに対し、日本人教員は学生ができるだけ積極的に授業に参加できるように、学生とのコミュニケーションを重視するという違いがあることがわかった。

また、教員の問題意識には、次のようなものがあった。「現代社会や学習者のニーズに合わせて、中国人教員の専門性の育成と教授形式の充実が急がれるべきではないか」、具体的には、「自ら日本人教員と交流する機会を積極的に作り、可能であれば、他の大学の日本語教員とも教材や教学経験を交換し、自分自身の能力を意識的に向上させることも必要ではないか」。また、「日本語教員としての専門性を育成するためには、大学側の関与も不可欠であり、大学内での教員研修を定期的に行うことや、日本への教育研修を増やすことはできないか」等である。

また、教材の面では、「教材の内容が古い」、「時代に遅れている」、「実用性が不足」、「新しい教材は写真や絵等が豊富で分かりやすいが、誤字や脱字が多く、内容が浅い」等の意見があった。さらに、「学習内容は、その都度、教員任せになっている。教授内容に柔軟性があるといえるが、逆にいえば各教員の専門性や知識面に全て委ねられることが問題になる」という意見もあった。

以上の調査を通じて、これまで現場の課題について学生を中心に考えてきたが、教員側（大学側）にも問題があることが分かった。場合によっては、カリキュラム全体を見直す必要もでてくるであろう。しかし、その問題にいきなり取り組むことが困難であれば、教師が自ら改善できる部分として、より適切な教材を使用する必要があるだろう。

南京農業大学のビジネス日本語教育の現状調査からみたビジネス日本語教育の主な問題点

調査結果から、学生側の需要が増大しているビジネス日本語に視点を当てれば、以下のよう
な問題点を指摘できるだろう。

ビジネス日本語に限れば、新しさゆえか、現場の人材の性質からなのか、その教育目標は明確に
されていない。そのため、教育内容は全体的に体系性に欠け、ビジネス日本語の授業内容と教え方
は学習者の要望を満たしていない。教材が体系性と実用性に欠けており、授業に取り入れられて
いる日本の「文化」は学習者のニーズに合っていない上に、社会のニーズにも応えられていない。

また、授業の主体は教師であり、教室活動がほとんど行われていない。また、知識伝達が中
心になっているため、ビジネス会話練習の機会が十分に与えられていない。

さらに、大学の学生への就業支援や指導は足りない。

では、大学におけるビジネス日本語教育の改善に視点を向けた時、今後取り組むべき課題と
してどのようなものが考えられるであろうか。

中国におけるビジネス日本語教育は、その多くが日本語基礎教育の延長線上に位置付けられ
ていながらも、その内容も方法も明確にされていない。ビジネス日本語関連の授業は、目的・
内容・方法などのいずれにおいても、その教授担当者の間に、共通理解の少ない科目といえよ
う。このような現状を打開するためには、まず、それぞれの大学が現在掲げている目標を達成
しているかどうか、学生の習得の状態を把握する必要がある。そして、社会人として求めら
れる資質、能力とは何かを的確に捉え、社会のニーズに応えられるような人材養成目標を定め、
それをどう実現していくかを常に念頭におくべきである。次に、実際の教育内容が教育の目標
に合っているかを大学側が常に把握しておくべきであろう。さらに、必要とされる「ビジネス
日本語能力」とは何かを明確にし、実際の授業では、それを育成するために適切な授業内容を
取り入れるよう指導すべきである。

現在日本語学科の授業の内容には、日本の「文学作品」や「大衆文化」が多い。しかし、牧
野成一（1989）は、日本の社会では話し手、聞き手、会話に係わる人・物の関係によって適切
な表現を選ばなければならないので、辞書や教科書にある訳語をそのまま学習者に与えるのは
危険であると指摘している。日本文化の指導に関しても、何を、いつ、どんな文化的背景の学
習者にどう教えるべきかについて基礎的研究が望まれる。では、ビジネス日本語関連の授業に
どのように日本文化を導入するのが適切なのだろうか、宋金梅（2008）はビジネス日本語教育
における文化導入の方法について以下の4点を挙げている。①文化関連の知識について質問を
する（联想問答式）②文化背景を展開して解説する（背景展开式）③語彙の補足説明をする（詞
汇补充式）④時事ニュースを紹介する（时事新闻补充式）。このような考え方を踏まえながら、
学習者の日本語レベル、知識構造、興味などを配慮し、学習者に興味を持たせる適切な方法を
考えていくことが今後の課題となるだろう。

教材については、日本語教員から、「教材の内容が古い」、「時代に遅れている」、「実用性が不
足」、「新しい教材は写真や絵等が豊富で分かりやすいが、誤字や脱字が多く、内容が浅い」等
の意見があった。さらに、「学習内容は、その都度、教員任せになっている。教授内容に柔軟性
があるといえるが、逆にいえば各教員の専門性や知識面に全て委ねられることが問題になる」
という意見もあった。学生からも「現在使っている教材を変える」という要望があり、ほぼ全
員が「より体系的に学習できる教材を使用する」ことを望んでいることが明らかになった。

教材だけでなく、授業そのものの進め方も改善が求められよう。すなわち、教師講義型の授

業から体験型教室活動を盛り込んだ学習者主体の授業へと転換するということである。

高見澤（2010）はビジネス日本語教育が参考になっている言語教育理論及びその応用方法を検討した。コミュニケーション・アプローチの「学ぶためには、実際に行わなければならない」という指導原理から、「社会で役立つコミュニケーション能力を育成するのには、学習者自身が主体的にその使用を経験することが習得の条件と考えられる。よって、ビジネス日本語もロールプレイなど実践的な訓練に重点を置いている」と実践の重要性を指摘している。中国の大学の授業では、従来、学生は受け身であったが、今回の調査から、現在は学生の意識が変わってきており、「先生がメディアを使って提示する」、「教室の場で体験できる」等、よりメディアを駆使した授業及び参加型の授業を望んでいることがわかった。

さらに、教員へのインタビュー調査結果から、中国人教員は基礎知識（単語、語彙、文法）をしっかりと教えるのに対し、日本人教員は学生ができるだけ積極的に授業に参加できるように、学生とのコミュニケーションを重視するという違いがあることがわかった。現代社会や学習者のニーズに合わせるためには、中国人教員の専門性の育成と教授形式の充実が急がれるべきではないだろうか、具体的には中国人教員自らが日本人教員と交流する機会を積極的に作り、可能であれば、他の大学の日本語教員とも教材や教学経験を交換し、自分自身の能力を意識的に向上させることも必要だろう。また、日本語教員としての専門性を育成するためには、大学側の関与も不可欠であり、大学内での教員研修を定期的に行うことや、日本への教育研修を増やすこと等、対応が求められる。

また、今回の調査結果から、南京農業大学の日本語専攻の学生は社会人としてどのような日本語が必要とされているかを充分認識していないといえるだろう。学生が日本語専攻を選んだ理由としては、「日本のアニメ、ドラマ、映画、音楽、アイドルが好き」が圧倒的に多く、「将来の就職の為」はそれに続く。一方で、過半数の学生が卒業後、日本語及び日本に関する仕事を希望している。また、学生は、日本人の「考え方・意識」や「会社・仕事」には関心を持っているが、ドラマ、アニメ、音楽等の「大衆文化」や「衣食住」、「生活習慣」等生活に近い内容のほうにより興味があるようである。今後力を入れて勉強したい内容についても、その答えは、「大衆文化」が最も多かった。これらの結果から明らかなように、在学中に学生が興味をもって触れる分野は「大衆文化」に偏っており、日本人と一緒に仕事をする場合や日本語を使って日本人とやり取りをする時に最も重要な内容である「日本人の考え方」や「日本の会社・仕事」等に対する知識の習得は不十分である。実際の教育内容については、「文学」の内容が最も多く、それには「日本人の考え方・意識」についての内容が含まれているものの、「会社・仕事」に関する内容は少ない。これは、学生の日本語能力をいかに仕事に対する認識不足に直接関係すると推測できるだろう。この問題を解決するためには、池田伸子（2009）は、まず、大学は社会人として要求されている日本語能力がどのぐらい高いものかを示し、自分の日本語能力はまだそのレベルには達していないということを認識させることが必要だと指摘している。

本調査で、学生のより良いキャリアアップのための、ビジネス日本語関連の科目の改善点として、最もニーズが高かったのは「就業支援や指導等の内容を増やす」ことで、8割以上の学生がそれを希望していることがわかった。中国の大学の就職指導センターの機能は、単に情報を提供し、企業を集めることにとどまっている場合が多い。就職活動が成功するかどうかは学生自身の努力次第である。日本の大学のように、学生支援部を設け、学生の就業支援や指導をするシステムが整っているだけでなく、企業、行政と連携までして、学生の就職を全力に支え

ているわけではない。しかし、大学に就職のサポートを希望している学生は決して少なくないのである。特に近年、大学生全体の就職環境がより厳しくなっており、その中でも日本語学科の学生は厳しい状況にある。それに加えて、日系企業は他とは異なる特有の企業文化をもち、採用の流れ、基準等も他の中国企業と異なる部分があるため、日系企業への就職の難度が高いのも事実である^{vi}。このような中、日本語学科の学生の就職支援や指導への要望はますます高まってきており、それはこの調査結果からも明らかである。

おわりに

以上、南京農業大学の学生と教員への調査を通して、現状を分析し、問題点を指摘、改善の方向について考察を行った。

日本語学科の大学生たちは、日本のアニメやドラマを入り口に日本語を学ぶが、同時に彼らは大学を卒業した後、自分が学んだ日本語をいかして仕事することを希望している。大学は、教育内容の中にその要求を満たす部分をより積極的に含むことも必要になってきているのである。もちろん、従来のように、いわゆる日本文化を文学作品から学ぶことも必要なことであるが、ビジネス日本語を通して日本を理解することも可能であり、その方向を深めたカリキュラムを充実させることも必要となるだろう。

また、今回は特定の大学の日本語学科を調査と考察の対象としたが、今後はより多くのケースとの比較検討を行わなければならない。それについては今後の課題としたい。

注

- i 宮崎大学 教育文化学部准教授
- ii 宮崎大学 教育学研究科学校教育支援専攻 日本語支援教育専修 平成25年度修了
- iii 「2011年版本科人才培养方案(英语、日语专业)」南京農業大学外国語学院HP
<<http://foreign.njau.edu.cn:8006/news.asp?id=966>> (2013年12月29日最終閲覧)
- iv 専攻科目とは、日本語学科の学生向けの専門科目のことであり、必修科目と選択科目が含まれる。
- v 中国では、学年次は日本と同じく一から四で表示する。しかし、中国では、前期のことを「上期」といい、後期のことを「下期」という。例えば、ここでの「四上」は四年次前期を表している。
- vi これについては、上原・陶 (2014)「中国の日本語専攻学生の就職活動に関する一考察」(『宮崎大学教育文化学部紀要』人文科学第31号, 1-23.) に詳しく述べている。なお、論文中で修士論文提出日を平成25年1月27日としているが、正しくは本論文のとおり平成26年1月27日である。

参考文献

- 池田伸子(2009)「留学生の就職を支援するための実践的日本語教育について」『ことば・文化・コミュニケーション 創刊号2009』131-142.
- 宋金梅(2008)「论商务日语教学中的日本企业文化导入」『广西大学学报(哲学社会科学版)』第30卷增刊, 73-75.
- 高見澤孟(2010)「ビジネス日本語の理論と指導法の研究」『日本語教育研究』56, 1-27.
<http://jp.86to81.net/htm/BasePage/9/article_id/003/066/0.htm> (2013年11月3日)
- 牧野成一(1989)「文化原理と言語行動」『日本語教育』49, 1-12.

謝辞

本論文で使用したアンケート調査にご協力いただいた南京農業大学外国語学院日本語学科の先生方及び学生の皆さんに心より感謝いたします。
(2014年10月6日受理)

別添資料①

问 卷 调 查 表①

您好！我是南京农业大学 05 届的毕业生陶婉悠。现在是日本宫崎大学研二的学生。

本问卷调查是我硕士论文的一部分，

感谢您抽出宝贵的时间配合本次调查，请您根据实际情况填写并作答！

※本问卷调查仅用于统计研究之用，问卷中涉及到的所有个人信息将不会对任何第三方公开，非常感谢您的合作。

▲上述说明已经完全理解（ ）（请在括号内划“√”）

- 您的性别是： ☐ 女 ☐ 男

- 您的年级是： ☐ 大一 ☐ 大二 ☐ 大三 ☐ 大四

- 您选择日语专业的原因是什么？（可多项选择，请在“☐”内划“√”）

喜欢日本动漫、影视、音乐、偶像明星	<input type="checkbox"/>	喜欢看日本的文学作品	<input type="checkbox"/>
对日本文化感兴趣（如茶道、剑道）	<input type="checkbox"/>	为了就职	<input type="checkbox"/>
想去日本留学/生活	<input type="checkbox"/>	受父母朋友的影响	<input type="checkbox"/>
其他（具体是：_____）			

- 渡日经验： ☐ 有 _____ 次 渡日目的：_____ 在日滞留时间：_____

☐ 没有

- 毕业后，您是否会选择与日语或日本相关的职业？（请在符合您所认为的分值处划“○”。）

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

- 您认为大学期间，哪些日语能力的培养很重要？（请在符合您所认为的分值处划“○”。）

	非常重要	比较重要	不是很重要	不重要
日语听力	4	3	2	1
日语会话	4	3	2	1
日语阅读	4	3	2	1
日语写作	4	3	2	1
口译笔译能力	4	3	2	1
日语演讲能力	4	3	2	1
跨文化交际能力	4	3	2	1
其他（具体是：_____）				

- 请您对您目前各方面的学习状况进行评价: (请在符合您所认为的分值处划“○”。)

	满意	比较满意	马马虎虎	不满意
日语听说能力	4	3	2	1
日语阅读能力	4	3	2	1
有逻辑性的日语写作能力	4	3	2	1
口译笔译能力	4	3	2	1
跨文化交际能力	4	3	2	1
社会实践经验	4	3	2	1

- 您认为在日语学习过程中同时了解日本文化是否重要? (请在符合您所认为的分值处划“○”。)

非常重要	比较重要	不是很重要	不重要
4	3	2	1

- 平时您主要通过哪些方式来获取日本文化相关知识的? (可多项选择, 请在“□”内划“√”)

专业课 ()	<input type="checkbox"/>	日文杂志、报纸	<input type="checkbox"/>
选修课、参考书等	<input type="checkbox"/>	影视、音乐、动漫等	<input type="checkbox"/>
网络电台 (NHK 等)	<input type="checkbox"/>	日本人朋友、老师	<input type="checkbox"/>
国内中文媒体	<input type="checkbox"/>	其他 (具体是:)	

- 如果开设日本文化相关课程的话, (请在符合的项目处划“○”)

具体的项目	您对以下哪些内容感兴趣?	目前日本文化相关课程涉及到以下哪些方面?	你希望加强学习以下哪些方面的内容?
地理・自然			
政治			
历史			
文学			
经济			
教育			

传统艺术(歌舞伎、茶道等)			
公司・工作(制度、体制等)			
年中行事			
衣食住行			
大众文化(漫画、动漫、歌谣等)			
生活习惯(洗澡、打电话的方法等)			
思维方式・意识 (内和外、暧昧、集团主义等)			
其他(具体是:)			

● 日本文化相关课程,您喜欢以下哪些课堂形式?(可多项选择,请在“□”内划“√”)

教学资料来源丰富、灵活	<input type="checkbox"/>	小组交流讨论、发表	<input type="checkbox"/>
始终使用同一本教科书	<input type="checkbox"/>	老师抽问、学生回答	<input type="checkbox"/>
多媒体展示	<input type="checkbox"/>	课后收集资料、完成指定目标并反馈	<input type="checkbox"/>
板书及口述	<input type="checkbox"/>	以试卷形式考核	<input type="checkbox"/>
学生临场模拟体验	<input type="checkbox"/>	观看相关的影视片断	<input type="checkbox"/>
其他(具体是:)			

● 您认为理想的“日本文化”课的任课老师有必要具备以下哪些方面?(请在符合您所认为的分值处划“○”。)

	非常有必要	一般	没有必要	完全没有必要
能用日语教学	4	3	2	1
讲解明白、易懂	4	3	2	1
授课手段、方式灵活多样	4	3	2	1
不能只一味的教授,要积极与学生进行互动	4	3	2	1
详细熟知当代日本社会情况	4	3	2	1
了解动漫、影视、歌曲等大众文化	4	3	2	1
有在日留学或就职经验	4	3	2	1
性格幽默、开朗	4	3	2	1
其他(具体是:)				

- 您认为日本文化相关课程在以下那个时段开设最合适？（请在“□”内划“√”）

请略述理由：

一年级	上□ 下□	二年级	上□ 下□	三年级	上□ 下□	四年级	上□ 下□
-----	----------	-----	----------	-----	----------	-----	----------

- 在您的认识中，日语教育与职业发展的关系（请在“□”内划“√”）

	赞成	说不清楚	反对
日语能力越高就业越好	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
日语听说能力比读写能力对找工作更重要	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
用日语阐述观点和起草提案等能力很重要	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
了解日本文化有助于交流沟通，有利于职业发展	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
日企实用日语和课堂所学有差距，应开设商务日语课	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
接受过日语教育的人更适应日本企业的工作环境	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
进了日企自然会了解日本企业文化，大学期间不用专门开设	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
日语能力越高工资待遇越好	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

- 您认为实用性商务日语的学习重要吗？（请在符合您所认为的分值处划“○”。）

非常重要	比较重要	不是很重要	不重要
4	3	2	1

- 您认为实用性商务日语与日本文化相结合有必要吗？（请在符合您所认为的分值处划“○”。）

非常有必要	一般	没有必要	完全没必要
4	3	2	1

- 为了将来更好的职业发展，您认为目前的商务日语相关课程有必要进行哪些方面的改

善？（请在符合您所认为的分值处划“○”。）

	非常有必要	一般	没有必要	完全没有必要
大量介绍经贸日语专业词汇和术语	4	3	2	1
更换现在使用的教材	4	3	2	1
开发更多实用性教材	4	3	2	1

別添資料②

〈关于日语教学中的文化导入情况的考察〉

一日语专业教师的采访调查

尊敬的各位老师：

你们好！

我是南京农业大学日语系 05 届的毕业生陶婉悠。现在是日本宫崎大学研二的学生。我的修士论文是关于日语教学中的文化导入情况的考察。

最近，在日本我和日本人大学生一起参加了就职活动，过程中遇到了诸多挫折，同时也收获了很多经验。和我一样专业的学生们如今在怎样的环境下学习日语，正在学习哪些与实用性商务日语相关的内容，有多少课程导入了日本文化，正在使用哪些教材，老师们又是如何授课的等等方面，想作进一步的了解。此次调查的目的在于为编写更好的教材提供基础，使教学更加有的放矢。

最后，感谢您在百忙之中抽出时间配合我的调查。

- (1) 您从事日语教育多少年了？
- (2) 有无访日经历？何时？何地？目的？多久？
- (3) 您担任大几的课程？您所担任的科目是什么？您担任的课程主要的目的是什么？
- (4) 贵专业是否开设了与“实用性商务日语”相关的课程？若有，与商务日语相关的科目名称是什么？是必修还是选修？主要有哪些方面的内容？▲
- (5) 商务日语教学中是否涉及到了日本文化？若有，请详细说明涉及到了哪些日本文化的内容？学生们的反应和效果如何？还有哪些课程涉及到了日本文化？你所担任的科目是否也涉及到了日本文化？▲
- (6) 您觉得日语教学中的文化导入有必要吗？其原因是什么？▲
- (7) 您上课时，通常使用哪些教学手段？主要采用的授课方式是什么？推荐给学生看的资料有哪些？▲
- (8) 您平时通过哪些手段收集有关日本的信息？
- (9) 您觉得现在使用的教材能够满足需要吗？如果有不足之处，其原因是什么？有必要作何改善？您希望提供给学生怎么样的教材及资料，学生才能够有效的利用？▲
- (10) 课堂上您使用什么语言授课？
- (11) 您担任的课程的评价方式是什么？
- (12) 您认为目前日本文化相关课程存在哪些问题？就如何改善提几点建议？▲